

ADVANTEST®

2019年度（2020年3月期） 第1四半期決算説明会

2019年7月24日
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ご注意

会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

将来の見通しに関する記述について

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれていません。
- これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

本資料の利用について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。



```
...mirror_mod.mirror_object = ...
operation == "MIRROR_X":
    mirror_mod.use_x = True
    mirror_mod.use_y = False
    mirror_mod.use_z = False
operation == "MIRROR_Y":
    mirror_mod.use_x = False
    mirror_mod.use_y = True
    mirror_mod.use_z = False
operation == "MIRROR_Z":
    mirror_mod.use_x = False
    mirror_mod.use_y = False
    mirror_mod.use_z = True

...selection at the end -add ...
..._ob.select= 1
..._ob.select=1
...context.scene.objects.active
...["Selected" + str(modifier
...mirror_ob.select = 0
... bpy.context.selected_ob
...print("please select")
```

2019年度第1四半期決算報告

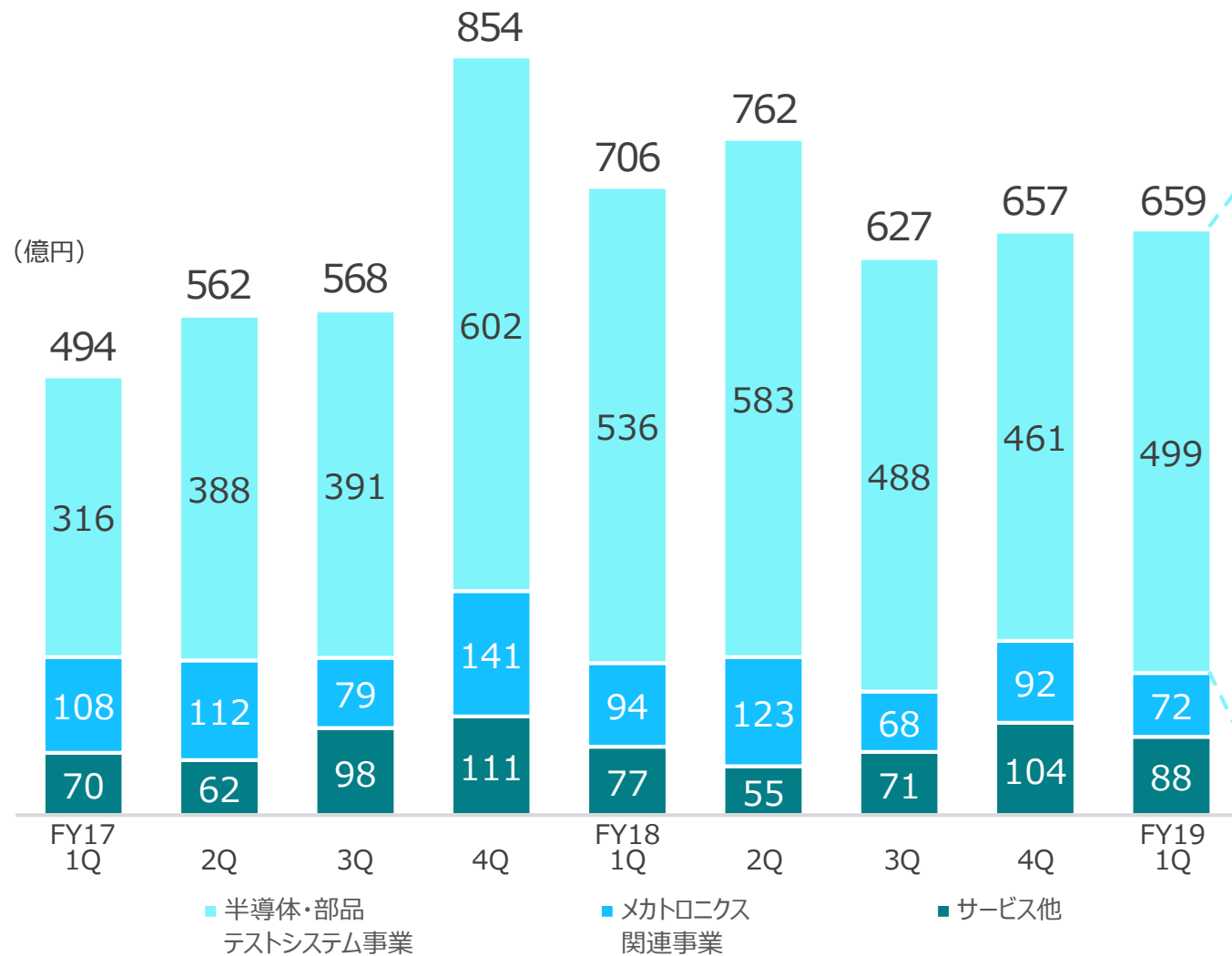
取締役 兼 常務執行役員 藤田 敦司

四半期業績推移

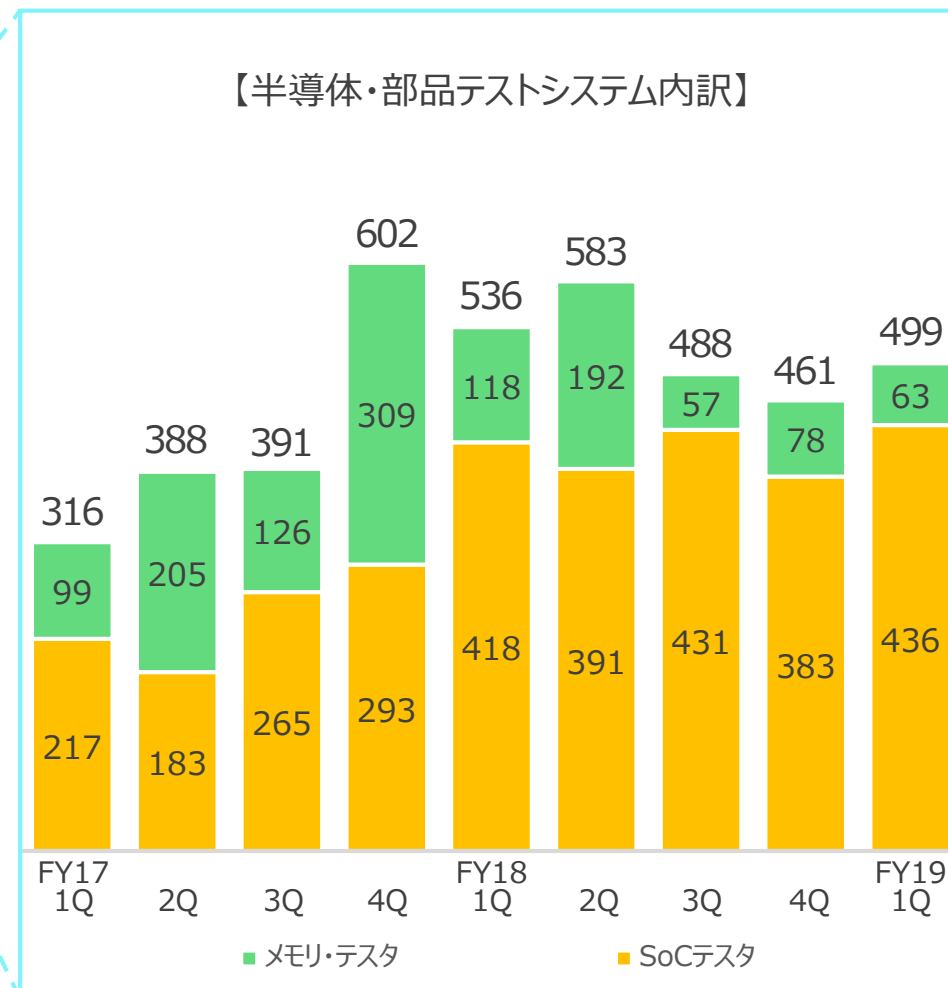
(億円)

	FY18				FY19				
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	前期比		前年同期比	
						増減額	増減率	増減額	増減率
受注高	706	762	627	657	659	+2	+0.3%	▲47	▲6.7%
売上高	709	727	749	640	662	+22	+3.4%	▲48	▲6.7%
売上総利益	382	389	425	344	394	+49	+14.4%	+12	+3.0%
売上総利益率	53.9%	53.6%	56.8%	53.8%	59.5%	+5.7pts		+5.6pts	
営業利益	158	180	207	102	152	+50	+48.7%	▲7	▲4.2%
営業利益率	22.3%	24.7%	27.6%	15.9%	22.9%	+7.0pts		+0.6pts	
税引前四半期利益	165	186	206	105	149	+45	+42.4%	▲16	▲9.6%
四半期利益	139	162	179	90	121	+31	+35.1%	▲18	▲13.0%
四半期利益率	19.6%	22.4%	23.9%	14.0%	18.3%	+4.3pts		▲1.3pts	
IFRS第15号適用に伴う 期首受注残の調整	▲30								
Astronics社SLT事業譲受に伴う 受注残の増加				+24					
受注残	795	830	708	749	746	▲3	▲0.4%	▲49	▲6.1%
為替レート	1米ドル	108円	111円	113円	111円	-		3円 円安	
	1ユーロ	131円	129円	130円	126円	1円 円高		6円 円高	

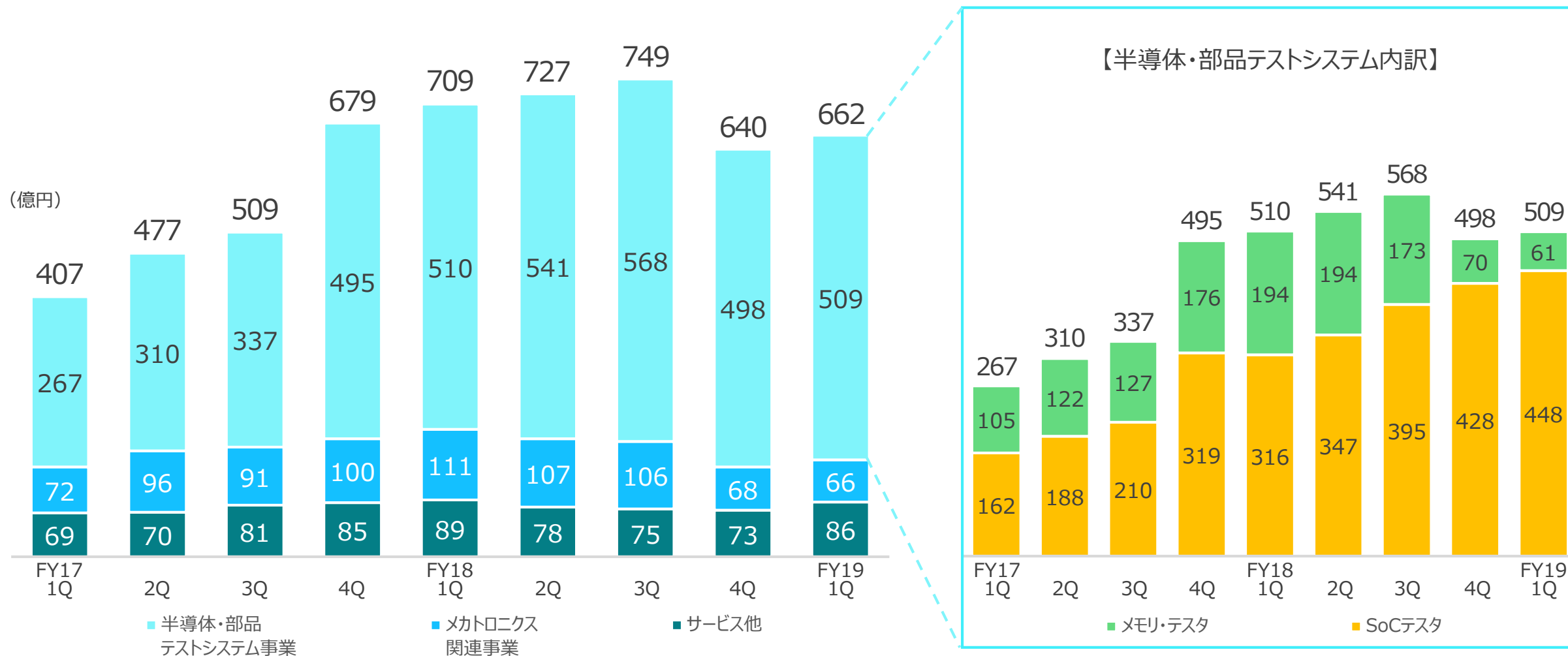
四半期受注高 事業セグメント別



*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

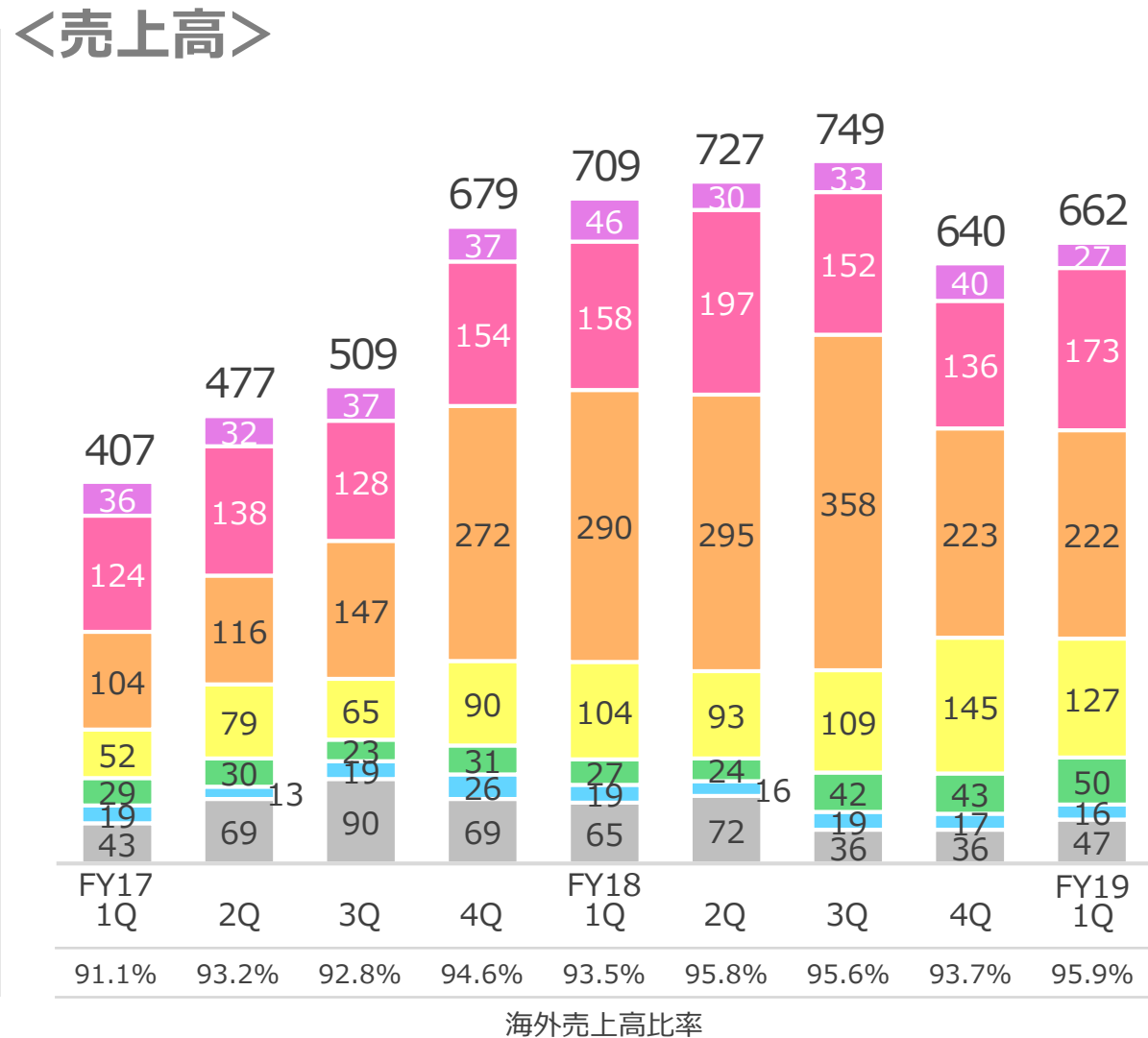
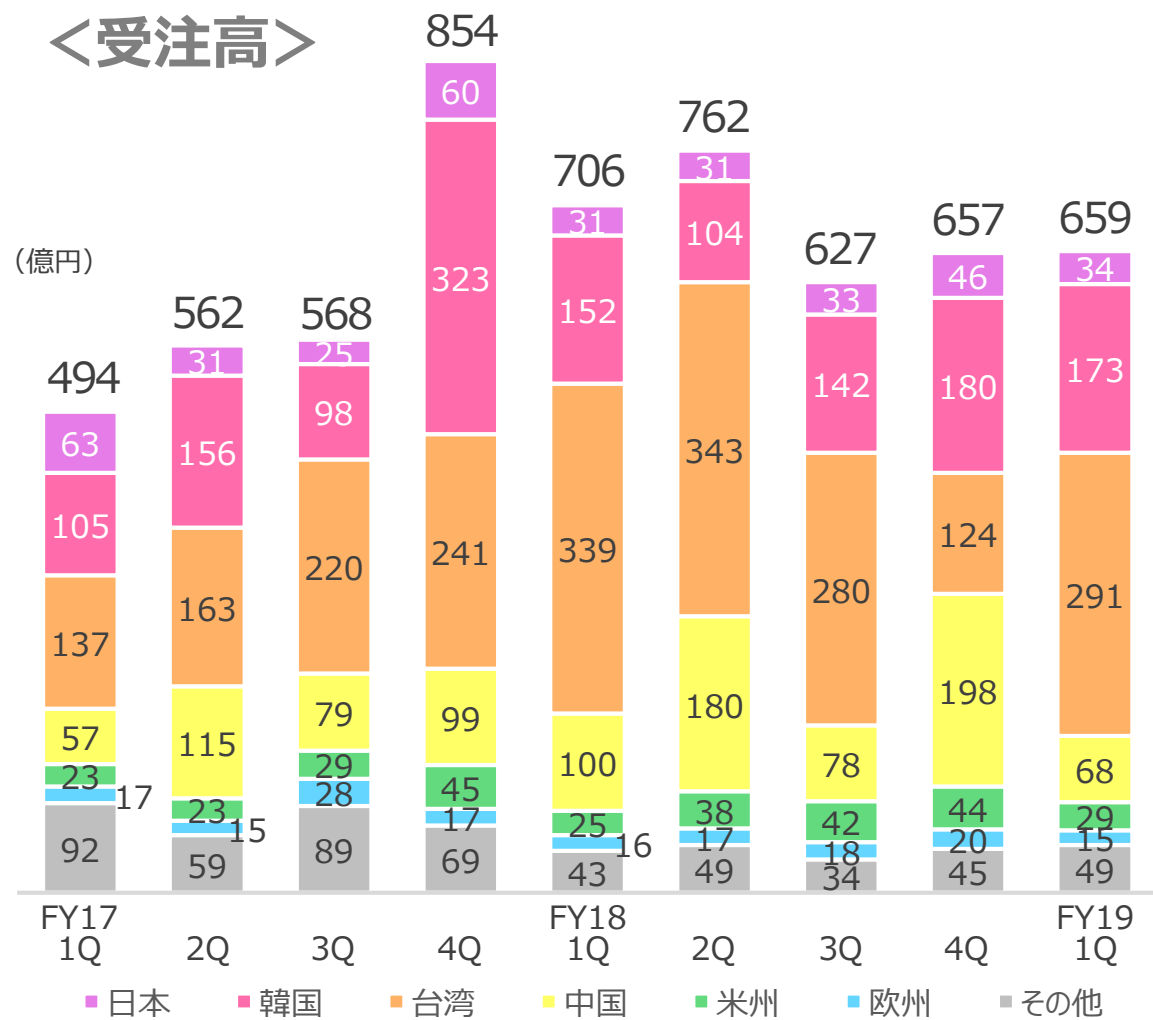


四半期売上高 事業セグメント別

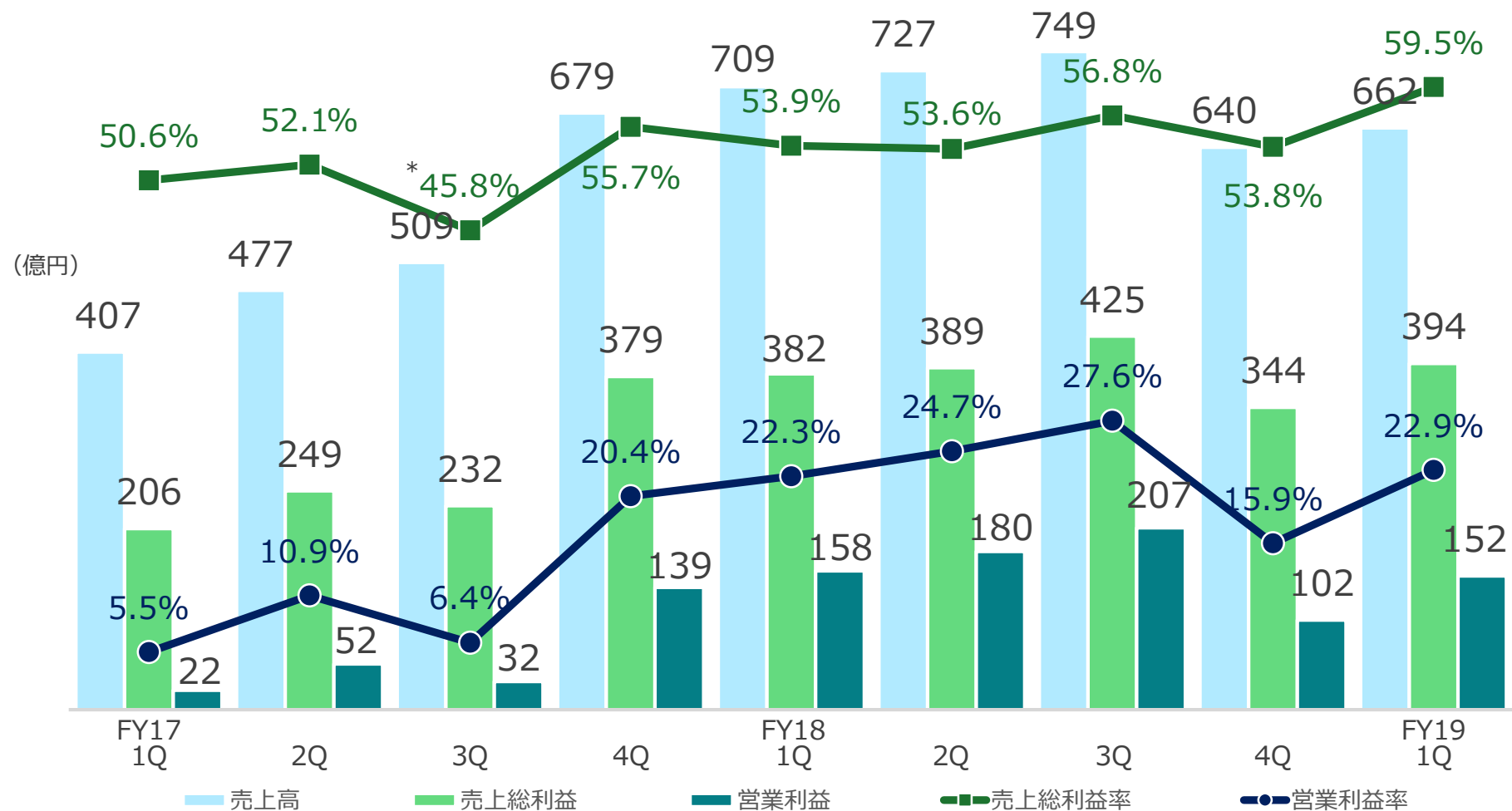


*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

四半期受注高/売上高 地域(出荷先)別



売上高/売上総利益/営業利益

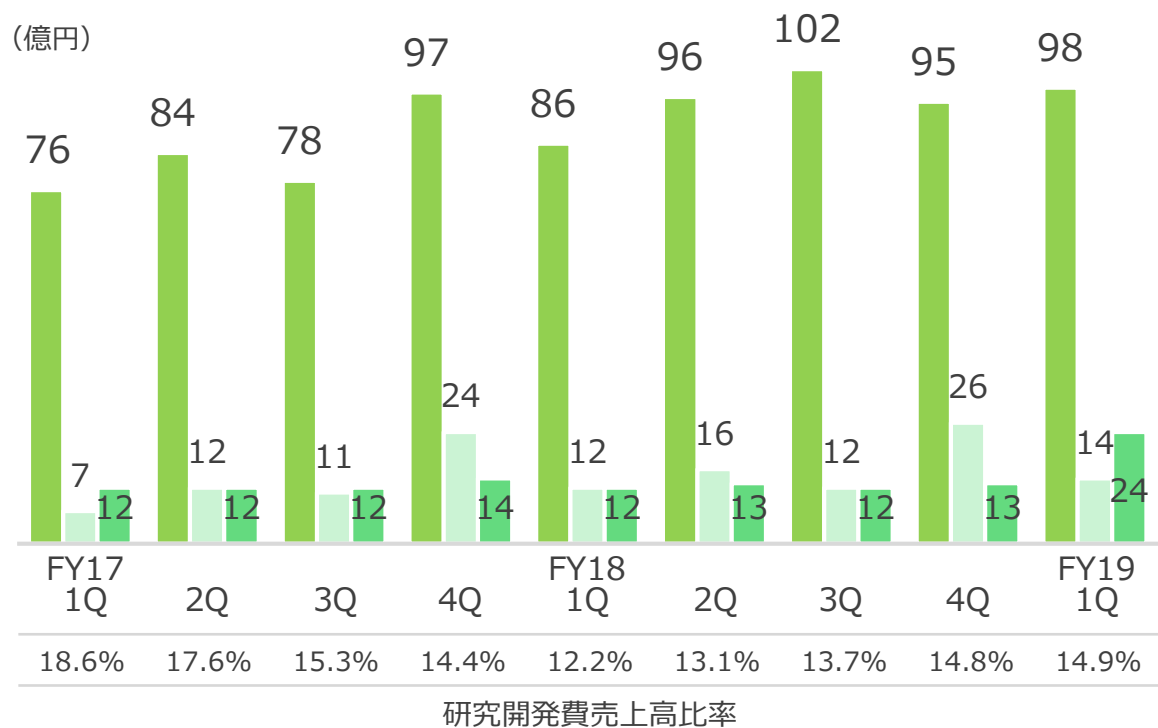


*FY17 3Qにナノテクノロジー事業の棚卸資産評価損(33億円)を計上しています。
この評価損影響を除いたFY17 3Qの売上総利益率は、52.3%となります。

投資等/キャッシュ・フロー

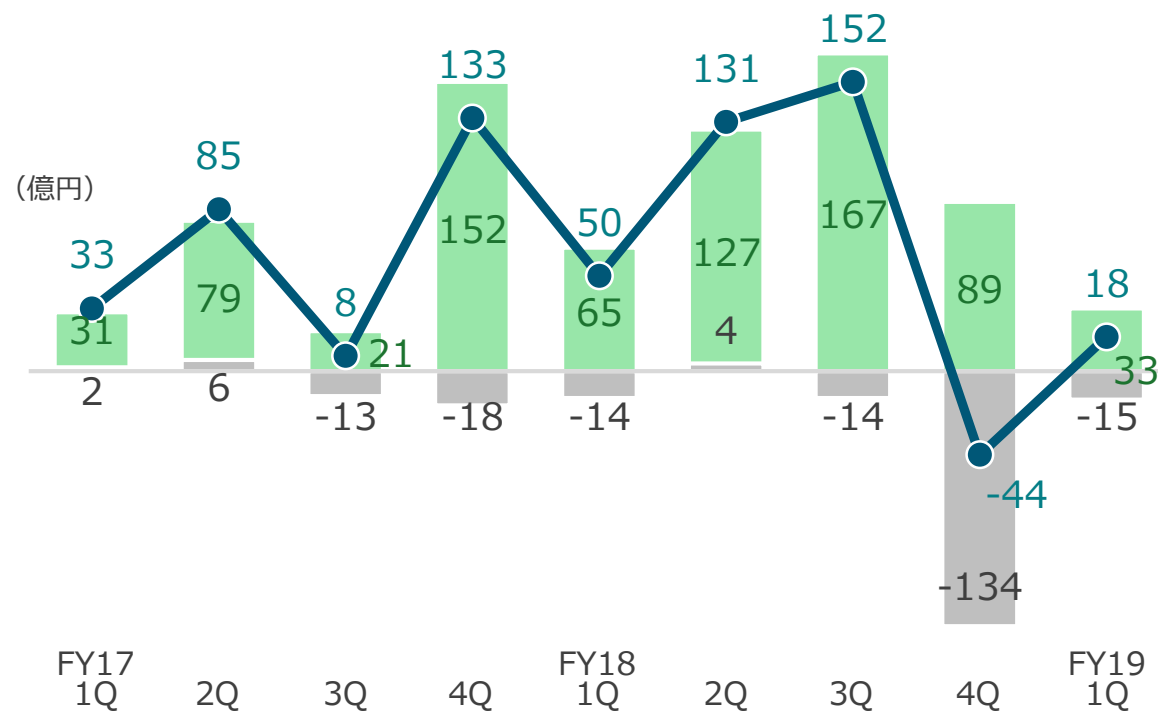
<投資等>

- 研究開発費
- 設備投資
- 減価償却費



<キャッシュ・フロー>

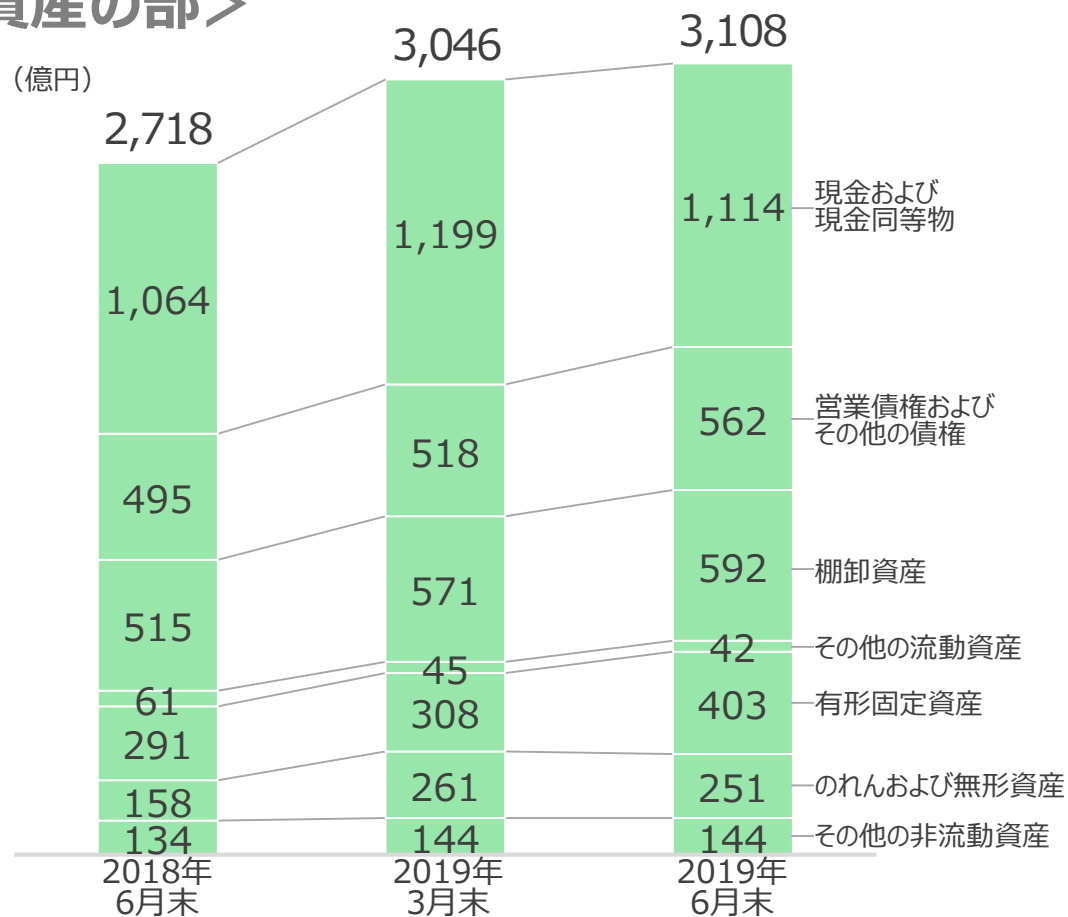
- 営業キャッシュ・フロー
- 投資キャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー



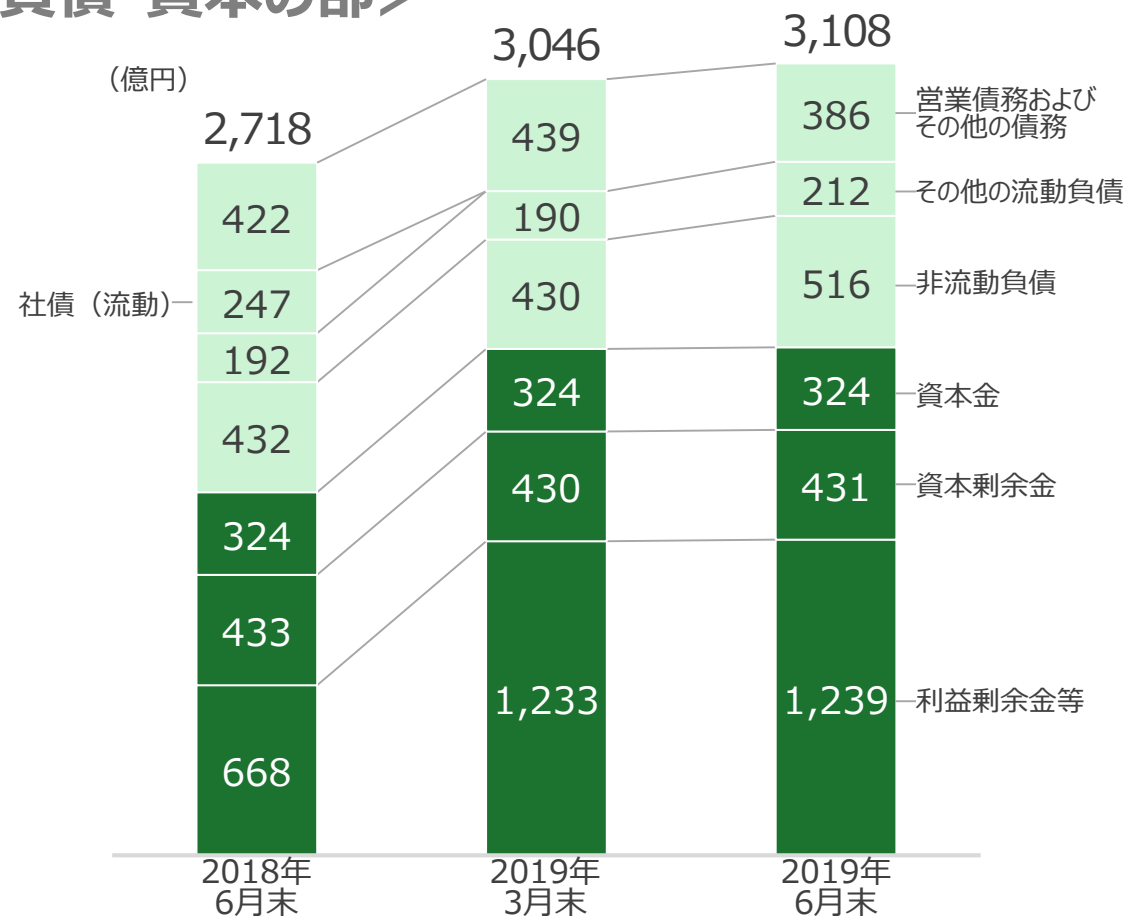
*フリー・キャッシュ・フロー = 営業キャッシュ・フロー + 投資キャッシュ・フロー

連結財政状態

<資産の部>



<負債・資本の部>



親会社の所有者に 帰属する持分	1,425	1,987	1,994
親会社所有者 帰属持分比率	52.4%	65.2%	64.2%

2019年度事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長 吉田 芳明

FY19業績予想（4月25日発表から変更なし）

（億円）

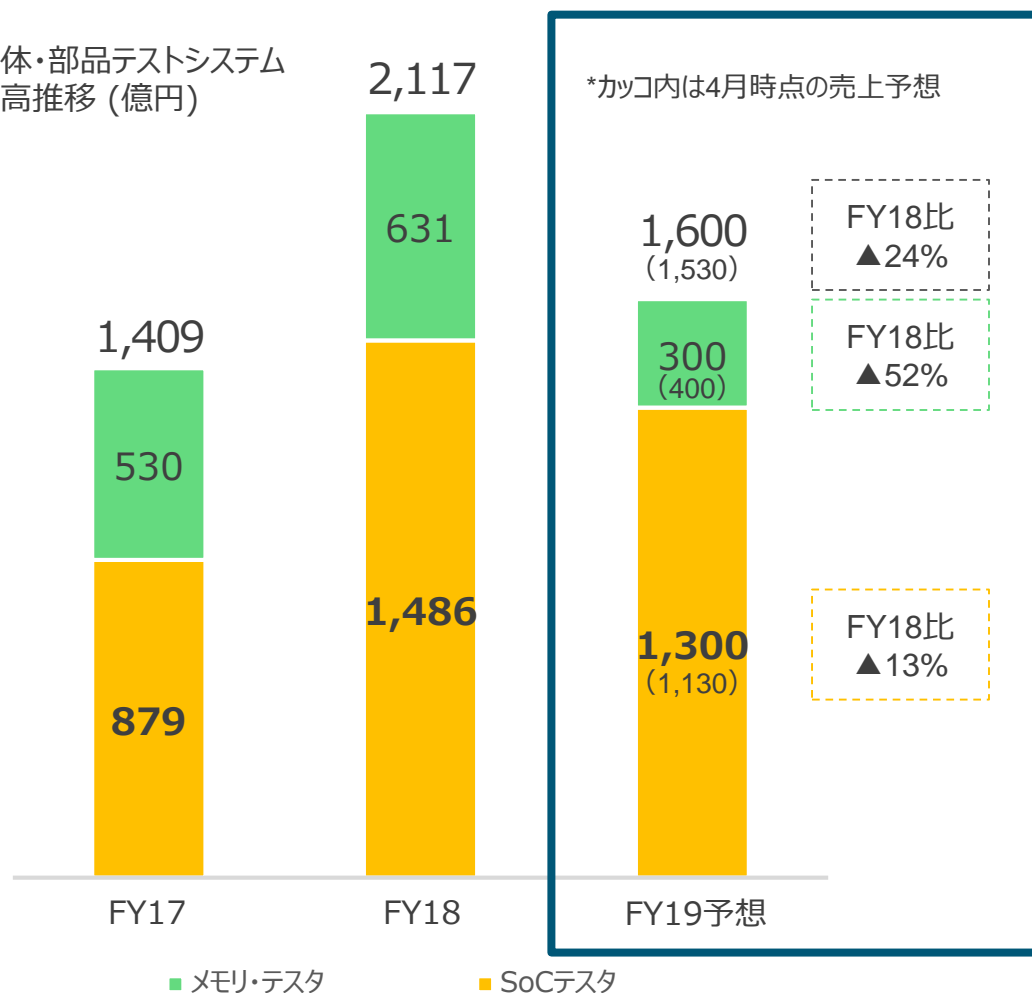
	FY18 実績	予想	FY19	
			前年度比	
			増減額	増減率
受注高	2,752	2,300	▲452	▲16.4%
売上高	2,825	2,300	▲525	▲18.6%
営業利益	647	300	▲347	▲53.6%
営業利益率	22.9%	13.0%	▲9.9pts	
税引前利益	662	310	▲352	▲53.2%
当期利益	570	260	▲310	▲54.4%
当期利益率	20.2%	11.3%	▲8.9pts	
受注残	749	749	-	-
為替レート*1	1米ドル	110円	110円	-
	1ユーロ	129円	130円	1円 円安
ROE	35.3%	12.6%	▲22.7pts	
1株当たり配当金（年間）*2	92円	未定	-	

*1: 為替レート変動が当社のFY19営業利益に与える影響の最新見通しは、対米ドルが1円安時プラス5億円です。対ユーロはマイナス1億円です。

*2: 現時点ではFY19の配当については未定です。今後の業績等を勘案し、可能となった時点で速やかに開示いたします。配当は半期の連結業績をベースとした利益配分を行うこととしており、半期の連結配当性向30%を指標としております。

FY19見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム
売上高推移（億円）



半導体・部品テストシステム事業

<SoCテスト>

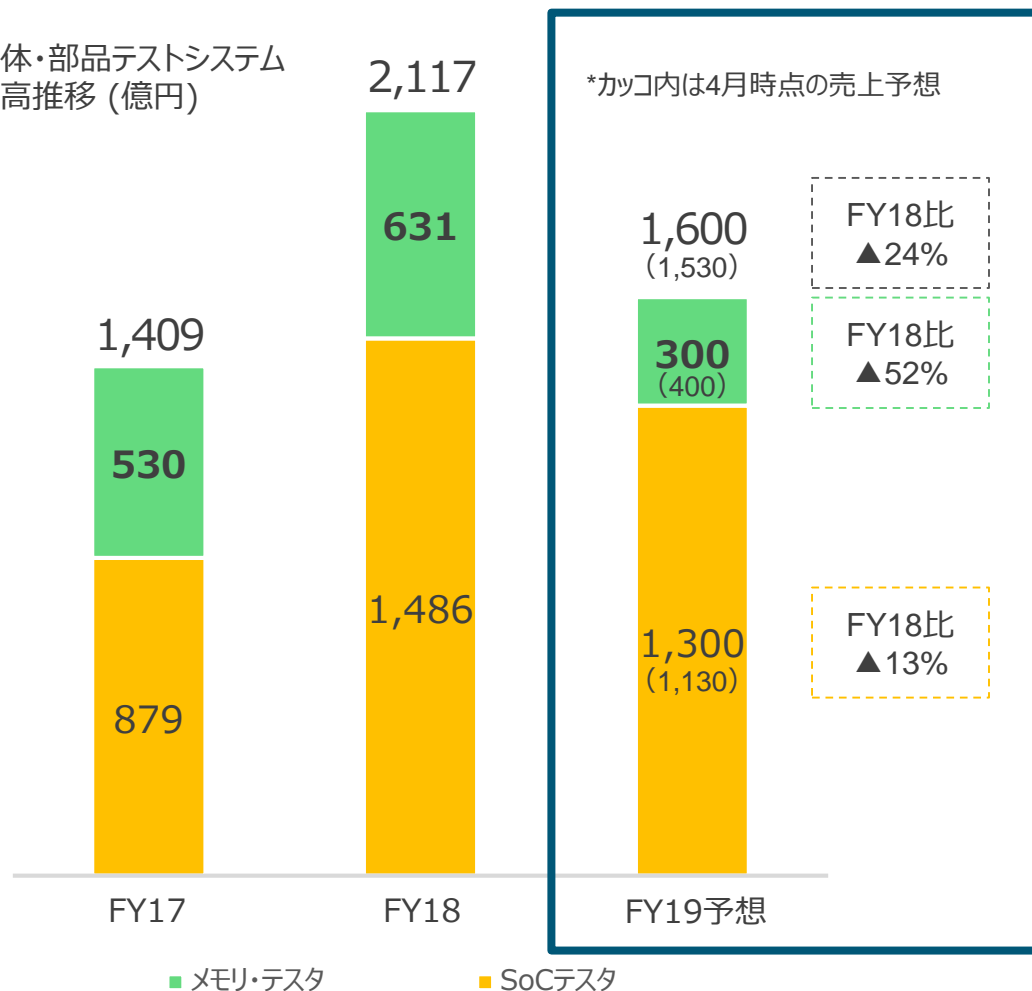
- 半導体高性能化の進展がSoCテスト需要水準を下支え。年度売上予想を引き上げる
- アプリケーション・プロセッサやイメージセンサなど、スマートフォン端末高性能化を支える半導体へのテスト能力増強トレンドが継続
- 5G関連需要は1Qに到来。CY20以降さらに本格化という従来の見方も不変

※参考：テスト市場予測

	4月時点の推定	7月時点の見方
CY19 SoCテスト市場規模	約\$2,000M	 市場規模、当社シェアともに想定以上の可能性

FY19見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム
売上高推移（億円）




半導体・部品テストシステム事業

<メモリ・テスト>

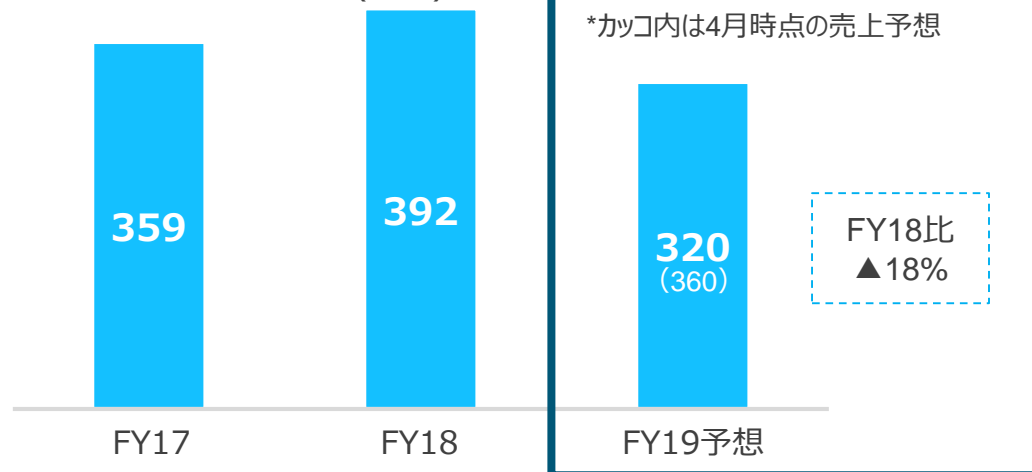
- メモリ在庫調整の影響下、メモリ・テスト需要の低調が想定より長期化。年度売上予想を引き下げる
- テスト需要はFY19 4Qの回復を期待
- DRAMでは、DDR5シフト、HPC向け高速品需要の拡大など、メモリ市況に左右されにくい明確な技術ドライバーが存在。当面のテスト需要をサポート

※参考：テスト市場予測

	4月時点の推定	7月時点の見方
CY19 メモリ・テスト市場規模	約\$550-650M	 下限値を下回る 公算

FY19見通し（事業別）

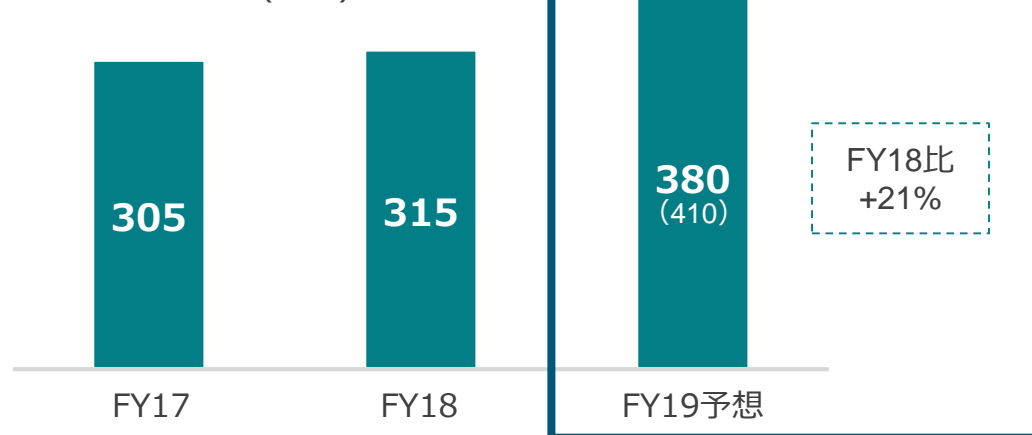
メカトロニクス関連 売上高推移（億円）



メカトロニクス関連事業

- メモリ顧客のテスト投資回復遅れに伴い、インタフェース製品中心にセグメント予想を引き下げ
- EUV関連需要の取り込みによりナノテク製品は増収見通し

サービス他 売上高推移（億円）



サービス他事業

- 顧客内のテスト稼働は一定維持されており、中核事業であるフィールド・サービス売上の底堅い推移を見込む
- SSD向けは低調だが、SoCのシステムレベル・テスト事業を強化中

サマリー

- 米中貿易摩擦、地政学リスク、半導体サプライチェーンの変動などにより、半導体市場/半導体製造装置市場は不透明感が増している
- SoCテスト投資増にサポートされ、FY19 1Qは当初の予想を超える業績進捗
- 下期の回復に期待はあるも、2Q・3Q受注の確認が必要
- テスタ市場は踊り場にあるが、先端テクノロジー関連需要の取り込みと市場シェア向上により中期経営計画の目標達成に努める